

世界遺産への登録をめざす 武家の古都・鎌倉ニュース

第6号 平成20年(2008年)1月発行
発行 鎌倉世界遺産登録推進協議会
編集 広報部会 編集人 内海恒雄
事務局 〒248-8686 鎌倉市御成町18-10
鎌倉市世界遺産登録推進担当
Tel.0467-61-3848 Fax.0467-23-1085
E-mail: sekaiisan@city.kamakura.kanagawa.jp

「ここまできた 鎌倉の世界遺産登録」

武家の古都・鎌倉シンポジウムを開催

2007年10月21日(日)、鎌倉商工会議所ホールで鎌倉の世界遺産登録をめざす市民の会主催、鎌倉世界遺産登録推進協議会共催による第17回武家の古都・鎌倉シンポジウムが開催されました。伊藤正義さん(鶴見大学教授、前文化庁主任文化財調査官)の基調講演を受けて、伊藤さん、安西篤子さん(作家)、玉林美男さん(鎌倉市世界遺産登録推進担当)をパネリストに迎え、内海恒雄さん(市民の会推進委員、登録推進協議会広報部会長)をコーディネーターとしてパネルディスカッションが行われました。以下にシンポジウムでの発言の要旨、次ページには基調講演要旨をご紹介します。



内海恒雄さん

伊藤 幕府の跡は住宅や学校が建ち、説明がむずかしいが、鎌倉の谷の中の場所に意味があり、御所はなくても地形や街の基準となる八幡宮、若宮大路が残り、自然も改変がないように確保されています。三方が山で前方が海の地形は母の膝の上から見た景色で母性原理の空間で平和原理を含んだ場所と言えます。そのような原理で出来ているからこそ街を守る寺社があり、象徴として八幡宮と大仏の二重構造がある。日本国、特に中世は好戦的という説明を大きく変えるべきです。



伊藤正義さん

候補地24カ所を納得させるように自信を持ってはしっかりと申請登録すべきです。社寺の意味合いも奈良、京都はフルコースの料理の素晴らしさを見せたが、鎌倉の場合、テーブルと器が綺麗だということを見せるべきであると思います。

玉林 中世は武士の時代であって武士は戦士でもある。そうした中で戦争と向かい合っている存在でもある。一方では正しい見方ですが文化の中にはとても大きな平和思想と人間救済の思想があります。1187年、八幡宮で敵方供養のための放生会が行われ、流鏑馬も奉納されて現在に伝わっている。奥州合戦の戦死者供養として永福寺が、蒙古襲来の敵味方供養で円覚寺が建てられました。敵味方供養は広く定着して沖縄で市民、日本軍、敵国軍の供養が見られます。日本人独特の平和思想が武家によって創られている。鎌倉の歴史遺産を市民と一緒に支えていくことがこれからの大きな課題であります。



玉林美男さん



安西篤子さん

安西 源頼朝は鎌倉を本拠地として、いわゆる武家政権ができました。畿内の朝廷による公家政権は最初、東国の賊の騒ぎかと思っていたが、やがて政権を打ち立てた。公家は寝殿造にすみ、武家は書院造が出てくる。(※裏表紙8Pに続く)

[国指定史跡指定に係る不適切な事務処理について] 鎌倉市長から市民と登録推進協議会に陳謝がありました

2007年12月21日(金)に、鎌倉市役所で登録推進事業部会と広報部会の合同部会があり、その席で石渡徳一鎌倉市長から、12月6日に市から公表された「国指定史跡指定に係る不適切な事務処理」に関して、推進協議会と市民に対する陳謝がありました。

その内容は、『鎌倉市世界遺産登録推進担当が行っている、国指定史跡指定に係る事務処理について、指定申請書類に必要な同意書の偽造等、極めて不適切な事務処理が行われていた』こと

をお詫びし、今後、再発防止のための取り組みを徹底し、市民の皆様の信頼回復に誠心誠意努力するというものです。両部会長はこれに対し、「市は責任の重さを充分認識し、今後、市民の信頼回復に真摯な努力を」「推進協議会としても、世界遺産登録に対し市民の理解を得られるよう一層努力する」と述べ、推進協議会としての活動を継続する決意を再確認しました。

市民の皆様と推進協議会会員の皆様のご理解と変わらぬご支援をお願い申し上げます。